

東日本支部 夏のリコチャレ 2025

「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪in いばらき」

開催報告

東日本支部では、茨城県石岡市・(一社)茨城県建設業協会建女ひばり会・茨城県土木部と共催で、リコチャレ
参画イベント「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪in いばらき」を石岡市で開催しました。

■ 開催概要

- 開催日 2025年8月5日(火) 13:30～16:30
- 場所 点検する橋：茨城県石岡市「小屋側道橋」 現場見学：上曽トンネル
講習会など：石岡市中央公民館
- 参加人数 子ども17名(小学生14名、中学生3名)、保護者14名
スタッフ34名：正会員6名、石岡市5名、建女ひばり会11名、茨城県土木部7
名、国土交通省常陸河川国道事務所2名、学生ボランティア3名 計65名



集合写真

●内 容

13:30 イベント開始、挨拶

13:35 1 時間目 橋の講習会

橋のひみつ、橋のペーパークラフトによる橋の仕組み説明、インフラメンテナンスについて、点検対象橋梁の説明、簡易橋梁点検チェックシートの記入の仕方について

14:15 2 時間目 橋の点検チャレンジ

場所：小屋側道橋

15:15 3 時間目 工事現場見学会

場所：上曽トンネル

※協力 茨城県土浦土木事務所

16:10 ホームルーム

土木の仕事について、女性土木技術者の現状
アンケート記入 解散



■ 当日の状況

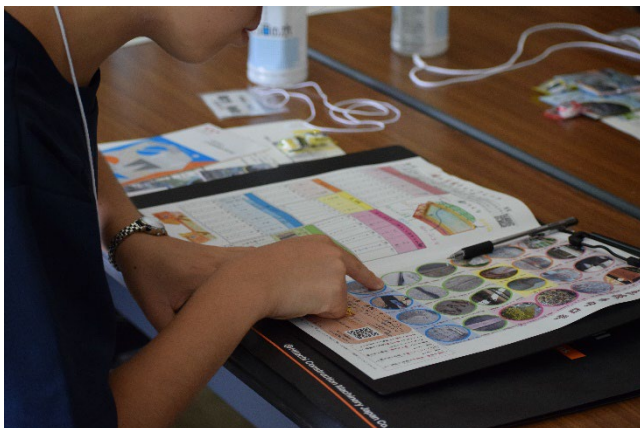
1時間目

橋梁点検体験に先立ち、国土交通省常陸河川国道事務所より「橋のひみつ」についての講義をいただきました。「橋って何だろう?」「日本にはいくつの橋があるの?」といったクイズを交えながら、橋の役割や種類について楽しく学び、参加者の興味を引きつける内容となりました。

クイズの後は、橋の部材ごとにペーパークラフトを組み立てるワークショップを実施しました。部材の名前や役割を確認しながら、親子やお友達同士で協力して橋の模型を完成させました。部材の多さやそれぞれの重要性に驚きの声が上がリ、橋の構造への理解が深まる貴重な時間となりました。

さらに、「インフラメンテナンス」や「点検対象橋梁」、「橋梁点検チェックシート」についての説明も行われ、これから行う点検活動の意義や約束事項を全員で確認しました。

最後に、石岡市道路建設課より、これから見学する上曽トンネル整備事業について説明いただきました。事業構想から35年、着工から7年をかけて完成したトンネルの背景や歩みについての話に、子どもたちだけでなく保護者やスタッフも真剣な表情で耳を傾けていました。



1 時間目状況

2時間目

小屋側道橋にて、橋梁点検の体験イベントを開催しました。2時間目は、建女ひばり会の皆様に担当いただき、参加者を温かくリードしていただきました。

参加者は4班に分かれ、「簡易橋梁点検チェックシート」を使って橋の各部を丁寧に点検しました。高欄、地覆、排水枳、舗装、伸縮装置など、普段は意識しない橋のパーツをじっくり観察し、気づいたことをシートに記入していきました。

点検中には、排水溝の詰まりを発見する場面もあり、スコップを使って詰まりを取り除くなど、セルフメンテナンスにも挑戦。橋の健康を守る“お医者さん”のような体験に、子どもたちは興味津々の様子でした。



2時間目状況

3時間目

2025年9月27日の開通を目前に控えた上曽トンネルを一足早く見学しました！

普段は絶対に入れない開通前のトンネルを歩くという貴重な体験に、子供たちは目を輝かせて大興奮。石岡市ドローンパイロットチーム「Peaceful Blue」

(https://www.city.ishioka.lg.jp/shigoto_sangyo_machi/anshinanzen_machizukuri/drone_rikatsu/page007494.html) によるドローンによる空撮も行われ、空からの写真撮影も行われ、非日常感あふれる体験となりました。

トンネル内では「測量チャレンジ！道路を測ってみよう！」と題した体験企画を実施しました。巻き尺やリボンテープを使って白線間の距離を測定し、今回のために作成した特製の横断図に記録していきました。

参加者は自分の歩幅や手の長さなどを使って工夫し、楽しみながら測量に挑戦。まるで技術者になったような気分で、笑顔が絶えない時間となりました。

3時間目の締めくくりには、トンネル火災時に煙を制御するための「ジェットファン」をフル回転！轟音とともに吹き抜ける強風に、子どもも大人も大はしゃぎ。迫力満点の体験に、会場は歓声に包まれました。



3 時間目状況

HR

現場見学後のホームルームでは、土木技術者女性の会より「土木の仕事について」「女性土木技術者の現状」について講義しました。子どもたちは、土木の仕事の多様性についてよく理解したようでした。一方、女性土木技術者の現状や取り組み内容については保護者からも驚きの声が聞かれました。



土木技術者女性の会 東日本支部 沼田支部長

■ おわりに

今年度、東日本支部長に就任した沼田リーダーのもと、「夏休み！ドボジョと橋をみてみよう♪in いばらき」が無事開催されました。

この取り組みは2021年からスタートし、今年で5年目を迎えます。昨年度には土木学会より「インフラメンテナンスチャレンジ賞」(<https://www.womencivilengineers.com/archives/10649>)を受賞するなど、注目度の高いイベントです。今回は開通前のトンネル見学という貴重な機会も重なり、募集開始からわずか1週間足らずで定員に達する盛況ぶりでした。

当日は全国的に40度を超える猛暑日となりましたが、参加した子どもたちは真剣なまなざしで、そして楽しみながらインフラメンテナンスや土木の仕事について学びました。橋の点検やペーパークラフト、トンネル見学などを通じて、インフラの仕組みや大切さを体感することができました。

今回のイベントを通じて、子どもたちや保護者の皆様に「インフラ」や「土木」を少しでも身近に感じていただければ幸いです。

最後に、本イベントの開催にあたりご協力・ご尽力いただきました茨城県石岡市、茨城県建設業協会建女ひばり会、茨城県土木部、国土交通省常陸河川国道事務所の皆様に心より感謝申し上げます。

■ アンケート結果

イベントの最後には、参加した子どもたちに授業で印象に残ったことや感想を聞きました。

「橋にはたくさんの部材が使われていること」「点検作業の大変さ」「土木の仕事が、普段の生活に欠かせないものを支えていること」など、学びの多さに驚いたという声が多く寄せられました。

中には、トンネル内で体験したジェットファンの強風が楽しかったという感想もあり、五感で土木を感じる貴重な体験となったようです。

また、「ドボジョ先生にひとこと」の欄には

- 「あつかったりさむかったりする中で、頑張ってすごかったです。これからもがんばってください！」という温かいエールも。その言葉に、スタッフ一同、背筋が伸びる思いでした。

子どもたちの素直な感想から、土木の仕事の魅力や大切さがしっかり伝わっていたことが感じられ、今後の活動への励みとなりました。

保護者向けのアンケートでは、子どもの様子、授業内容、そして最近「土木」について感じることにに関して質問しました。

多くの方から「普段できないことを体験できて、子どもにとって良い経験になった」との声が寄せられ、イベントの学びと楽しさがしっかり伝わっていたことが伺えました。

また、

- 「まだまだ男社会が強くて大変な業界だと思いますが、これから社会に出る女の子たちが活躍できる環境になるよう応援しています」
- 「男性のイメージがあるので、これからもドボジョの活躍に期待しています」

といった、女性技術者＝“ドボジョ”への温かいエールも多数いただきました。

中には「ドボジョの皆さんがどのような進路や経歴で土木の道へ進んだのかを知りたい」といった声もあり、子どもたちの将来の選択肢として“土木”が少しずつ身近なものになっていることを感じました。

今後もこのようなイベントを通じて、より多くの方々に「土木」の魅力と可能性を伝えていけるよう、取り組みを続けてまいります。